

## 代表質問

## 次代を拓く子どもたちへ ～つなぎたい未来と支援の充実～



動画視聴

民主・護憲クラブ  
平山 光子 議員

**問** 教育機会確保法の理解として、児童生徒の自立を目指し、支援の在り方を拡張していく必要が示されている。教育委員会の取組と

幼児期のことばや視力、発達障害などの早期発見・支援の充実につながる体制整備を

**問** 近隣市には設置され、ニーズも増えている幼児ことばの教室が本市には設置されていないが、必要ではないか。

**答** ことばと心の相談を実施し、療育が必要となった場合は、専門機関に紹介して、適切な療育が継続できるよう支援している。

**問** 弱視や斜視等については、3歳児健診で見過ごされると就学時健診では手遅れになる場合もある。機器が導入された柳川市では要精密検査につながる事例が前年の5倍20件に増えたが、本市の現状は。

**答** 令和2年度が10件、令和3年度が11件となっている。

**再発言** 効果ははっきりしている。早急に支援の充実を。

**問** 来年3月にはこども家庭庁が発足し、母子保健と障害児福祉の縦割りではなく横展開を求め、自治体にこども家庭センターをつくることを求めているが、本市の対応は。

**答** 作成される国のガイドラインを踏まえ、体制の整備を検討していく。

教職員不足が深刻  
教職員の働き方改革は急務

**問** まだまだ多忙な教職員の働き方改革の進捗等は。

**答** 学校の意見を聞き、子どもと向き合う時間の確保に向け、教育課程や行事等の整理・効率化の協議や部活動の地域移行等を検討している。

子どもや若い世代に  
つなぎたい社会、未来は

**問** 世界規模で苛烈になる自然災害や長引くコロナ禍など、難しい課題に直面する中、様々な影響を受け成長する子どもや若者に、どんな未来をつなぎたいと思われるのか、市長からのメッセージを。

**答** 先人の努力にも思いをはせ、今ある困難を乗り越え、新しい未来を切り開いてもらいたい。そして、私たち大人は、しっかり応援していくと様々な機会を捉え、伝えたい。

**再発言** 大人は皆、次の世代が安心して暮らせる平和な社会にと願うが、日本はそれに向かっているのだろうか。

戦争や貧困、飢餓をなくし、誰もが幸せに暮らせる社会に向かうよう、子どもたちにはしっかり学んで、優しく、たくましく、賢い主権者になってもらいたい。それを応援するのは大人の責任。市長には、さらなる子ども支援と教育の充実頑張してほしい。

深刻な不登校の現状、  
教育委員会の向き合い方に  
感じる本気度

今後の計画は。

**答** スクールソーシャルワーカーの増員、適応指導教室や教育相談室の充実、相談時間の拡充、巡回指導員の配置等を検討している。また、スクールカウンセラーの配置時間拡充を県に要望している。今後も魅力ある学校づくりとともに、長期的視点に立ち、様々なアプローチを進めたい。

**問** 幼児期の発達の遅れや障害等の発見、支援の遅れも不登校の一因ではないかと考えるが、教育委員会の見解は。

**答** 文科省国立教育研究所の資料にも、発達障害のある児童生徒は環境要因からも大きな影響を受け、不適切な対応が繰り返されると不登校のリスクが高まると示されている。

**再発言** 子どもは、未来の大切な担い手。教育委員会には不登校児童生徒の居場所づくりや様々な連携によるさらなる支援の充実を要望する。

